

# 婆娑羅のごとく

安達 哲治さん(62)

永く東京に住むと、時折、無性にうどんが食べたくなる。今や東京にも「さぬきうどん」の店があり、江戸っ子のふりをして、たまに食すも満たされない。やはり故郷の空気と匂いがいい。丸亀を離れて44年。母や妻の両親、親類や友人が、折に触れて呼び寄せてくれる。そして、5歳でバレエの世界を切り開いてくれた故・近藤博のバレエ研究所が、今も演出や振り付けの仕事を与えてくれる。

町内対抗で、お城まつりに変装したことや夜桜の丸亀城で食べた弁当の味、丸高の陸上部で青春を燃やしたり、バレエ技術の修養を積んだりした日々――。故郷の思い出は今も色あせない。例えば、一生の仕事としてバレエ芸術に携わることになった原点は、「お城まつり」で変装して表現する楽しさを知ったことにある。舞踊生活57年、プロとして43年、終点のない目標に向かっ



平成12年 婆娑羅まつりでのセレモニー



昭和31年ころのお城まつり(一番右が筆者)



NBAバレエ団芸術監督。東京都武蔵野市在住。今津町出身。

てまだまだ道中ば……。 「文化を牽引すべし」と、文化庁から重点支援を受けてNBAバレエ団の芸術監督を務めているが、芸術の創造、人材育成、国際的な文化の発信や振興、基盤施策など、課題は山積している。

社会というものを舞踊活動を通して学んできた。平成12年だったと思うが、婆娑羅まつりの発足に際し、実行委員会からの依頼で、「バサラ」をイメージした作品発表と市長との対談が美術館のゲートプラザであった。その時初めて、婆娑羅大名である佐々木道誉のことを知り、わたしの求める道と重なり、いまも精神的な糧としている。

深化するグローバルの波の中、婆娑羅まつりが市を活気づけたように、丸亀市は佐々木道誉が成した知恵と芸術を進め、伝統を踏まえながら、時代、時代の新しい血を取り込んで革新を続けてほしい。

**花便り 今月の見どころ**

**サルズベリ**：7月中旬から3か月程度、赤い花を咲かせることから百日紅とも呼ばれるサルズベリ。赤い花が一般的ですが、白い花をつけるものもあります。

**なか 東 心葉ちゃん**  
(H18.8.19生) 山北町

初めての浴衣に大喜び♪  
ますますかわいさ急上昇

**かめい 龜井 心愛ちゃん**(左) (H18.10.31生)

**せな 星那ちゃん**(右) (H20.7.8生) 原田町

2人で仲良く素直で優しい女の子になってね♡

**わが家のアイドル**

**募集**

- ★1歳から3歳までのお子さんを紹介します!
- ★申し込みは、秘書広報課へ24-88000へ

